



市民とともに 見直す市の事業

平成21年度事業仕分けの 予算反映

市は、昨年6月28日(日)、国に先駆けて実施した『登別市事業仕分け』で仕分けた11本の市の事業について、仕分け結果などを参考に平成22年度の予算編成を行いました。

今月号では、仕分け結果と予算への反映についての市の考え方をお知らせします。



市民が必要とする事業の あり方を検討する 『登別市事業仕分け』

『登別市事業仕分け』は、市の事業について市民の視点で行う外部評価の一つで、市民に市の事業について知っていただくとともに、公開の場で市民とともに事業のあり方について考える手法です。

『登別市事業仕分け』では、市が行う事業について、市民で構成する『仕分け人』が、市職員による市の事業内容の説明の後、事業が『そもそも』必要かどうか、必要であればどこが主体となって実施するべきか(市か民間か)、市が行う場合はど

のように行うべきかなどについて、事業を切り込みます。最終的には、事業を次の4つのいずれかに仕分けします。

- ◆不要 市民生活に影響がない、効果がない、または薄いなど
- ◆民間 行政の役割が終了している、民間が行う方が効果的・効率的、民間委託などを行うべきなど
- ◆登別市(要改善) ニーズの再把握が必要、事業内容の抜本的な見直しが必要、事業統合や段階的廃止が必要など
- ◆登別市(現行どおり) 現行どおり事業を行うことが望ましいなど

事業仕分けの結果などを参考に 編成した平成22年度予算

市は、事業仕分けの対象となった事務事業について、事業仕分けの結果や市内部で行う事務事業評価などを参考に事務事業の方向性を決定し、平成22年度の市の予算に反映させるよう努めました。

予算編成に当たっては、単に事業費を削減するのではなく、事業仕分けの結果などを参考に事務事業がどうあるべきかを検討し編成しました。11事業の平成22年度の予算で、事業仕分けによる事業費効果があった

事業は2事業で、『登別市名誉市民及び功労者表彰・市表彰事業』では、功労金や略章の付与、記念品の贈呈を廃止することで87万9千円の効果がありませんでしたが、平成22年度の受賞対象予定者数が平成21年度よりも多いため、予算額としては44万9千円の減額にとどまりました。

また『戦没者追悼式関係経費』では、民間バスの借り上げを行わず、市のバスを活用することで、7万6千円の効果がありました。